



令和4年度学校教育指導の指針

「ふるさと旭に誇りをもち、社会で活躍する人を育てる」をスローガンに掲げ、5つの「市の目指す子ども像」を重点に、児童生徒の教育に取り組んでいます。

1 ふるさと旭に誇りをもち、社会に視野を広める子ども 推進する主な内容

- 豊かな自然環境や歴史、文化、産業などを生かしたふるさと教育
- 郷土と世界に目を向け、コミュニケーション能力を養う取り組み

主な取り組み

各校の交流支援や、指導主事による保幼小中の訪問と支援を実施します。「学校自慢」の推進や市公共施設の案内による利用促進をするほか、指導室便り「かけはし」を発行して情報を発信します。

2 社会の変化に対応できる確かな学力と生涯にわたり 自ら学ぶ姿勢を身につける子ども

推進する主な内容

- 確かな学力を育む活力ある学校づくり
- 将来の生き方や働き方につながるキャリア教育

主な取り組み

学校訪問の実施、研修会や就学相談の充実のほか、ICT教育推進委員会を開催します。

3 豊かな人間性や道徳心を持った思いやりのある子ども 推進する主な内容

- 共生社会の実現に向けた取り組み
- 体験活動と心の教育

主な取り組み

道徳教育研修会を充実させるほか、さまざまな交流活動を推進します。情報モラル教室への指導主事の派遣や、学校いきいきプランの活用を推進します。

4 健やかでたくましく、活力にあふれる子ども

推進する主な内容

- 食育と健康・体力づくり
- 安全教育と安心して活動できる環境づくり

主な取り組み

課外活動支援事業を充実します。学校給食の工夫や改善、スクールカウンセラーの配置と活用をするほか、安全・安心な施設整備を行います。「子ども110番の家」への協力を依頼します。

5 地域と関わり成長する子ども

推進する主な内容

- 地域とともに歩む学校づくり
- 各種交流活動や文化・スポーツ活動および環境に関わる取り組み

主な取り組み

開放学校の支援や地域学校協働本部の設置と支援を行うほか、さまざまな関係機関との連携を図ります。

あさひ輝いた人々

第44回

国際連合の貢献者

あかたに げんいち

赤谷 源一 (1917～1987年)



源一は外交官であり、日本人初の国際連合事務次長を務め、日本の国連外交推進に貢献しました。

大正6(1917)年、税関職員だった父の赤谷由助よしすけの勤務先である中国山東省青島で生まれました。

その後、日本に帰り、父の出身地である共和村鎌数に住みましたが、父の職業柄勤務地の異動が多く、それに伴って各地を転々としてしました。

昭和14(1939)年にイギリスのオックスフォード大学を卒業、昭和17(1942)年には上智大学を卒業し、昭和20(1945)年に外務省に入り外交官になりました。

子どものころから外国で生活していた経験から、豊かな国際感覚を持ち、語学力も非常に高かったので、外交

官として次第に頭角を現していきました。

アメリカ合衆国の日本大使館参事官を経て、国際連合の総会では日本政府の代表大使にもなりました。また、時の佐藤栄作総理大臣にも信頼され、さまざまな場面で通訳としても活躍しました。

昭和53(1978)年、国際連合広報担当事務次長になりました。

国際連合は、主に国際平和と安全の維持を目的として、世界各国の友好関係を発展させ、国際協力を行うための機関です。

国際連合における事務次長の職は、世界における日本の地位を確立させるための重要な仕事でした。源一はその要職に選ばれ、重い責任を見事に果たしました。

外交官を辞した後は、少年時代に生活した旭で過ごすとうと、神宮寺に住みました。ふるさとである旭を忘れてはいなかったのです。

また、本名は「あかや」ですが、外国人にとって聞き取りにくい「あかたに」と名乗っていたといわれています。